

授業概要

本授業では、平安時代後期から鎌倉時代にかけての仏師と仏像の歴史を中心に取り上げる。代表的な仏師の仕事とその仏像を概観するほか、火災で焼失した寺院・仏像を復興する「復興造営」や、関連する絵画、工芸品、建築なども適宜紹介する。現在残る仏像の鑑賞方法だけではなく、史料から知られる仏師の工房や仕事、仏像制作に関わる人々、その背景にある信仰との関係などについて解説し、現在失われてしまった寺院、仏像を含めた当時の仏師や仏像制作の様子を総合的に講義する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	仏像の基礎知識
第 3 回	平安時代後期の仏師（1）康尚と定朝
第 4 回	信仰と美術（1）藤原道長と経塚
第 5 回	平安時代後期の仏師（2）院派仏師と円派仏師
第 6 回	仏像制作に関わる人々 一願主
第 7 回	信仰と美術（2）浄土信仰と阿弥陀堂
第 8 回	平泉の寺院と仏像
第 9 回	鎌倉時代の仏師（1）運慶・快慶
第 10 回	復興造営（1）興福寺
第 11 回	復興造営（2）東大寺
第 12 回	鎌倉幕府関係の寺院と仏像
第 13 回	鎌倉時代の仏師（2）運慶の息子たち 1
第 14 回	鎌倉時代の仏師（3）運慶の息子たち 2 / 鎌倉大仏
第 15 回	復興造営（3）蓮華王院本堂（三十三間堂）
第 16 回	筆記試験

到達目標

平安時代後期から鎌倉時代にかけての仏師の歴史、仏像の造形表現の特徴など、基本的な仏像史の流れを身につける。仏像や寺院を手がかりに、平安時代後期から鎌倉時代の文化や時代背景の特徴を理解する。

履修上の注意

- ・私語、遅刻、途中退室をしないこと。
- ・仏像や寺院などについて初歩的なことから解説するが、日本の文化や歴史に興味があることが望ましい。
- ・授業中、スクリーンに映される作品をよく見る習慣をつけ、作品の特徴を理解するように努めること。

予習・復習

- ・日本史の教科書などを読み、取り扱う時代の流れを確認しておくこと。
- ・授業内で紹介した仏像やそのほかの作品について、配布資料や美術全集に掲載された写真をみて、その特徴を再度理解すること。

評価方法

期末試験（70%）とコメントペーパー（30%）によって評価する。

テキスト

- ・教科書は使用しない。参考文献を授業内で紹介する。
- ・資料を毎回配布する。